

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：82404

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K04253

研究課題名（和文）精神障害者の貧困・社会的排除の予防に向けた家族支援・早期支援に関する学際的研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary Study on Family Support and Early Intervention to Prevent Poverty and Social Exclusion Among People with Mental Disabilities

研究代表者

清野 絵（Seino, Kai）

国立障害者リハビリテーションセンター（研究所）・研究所 障害福祉研究部・研究室長

研究者番号：00584385

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、貧困や社会的排除の状態にある精神障害者およびその家族の調査により精神障害者の貧困・社会的排除を予防する効果的な家族支援・早期支援のあり方を明らかにすることであった。具体的内容として、精神障害者とその家族へのインタビュー調査や質問紙調査を行った。また貧困・社会的排除を予防するための手段の一つとして雇用による社会参加に焦点をあて研究を行った。調査の結果、精神障害者やその家族は、医療、福祉、生活、金銭的な様々な困難を抱えており、提供されている医療福祉サービスは有効なものがあるが、サービスそのものや情報へのアクセスの困難や、内容に課題があることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、精神障害者の貧困や社会的排除につながる課題についてその課題を解消するための取組を整理し、提言した。本研究は、学術的には、精神障害者とその家族の困難や既存の医療福祉サービスやそれらへのアクセスの課題を明らかにした。そして、その困難の解決に有効な可能性のある必要な情報、支援、ツールを明らかにした。社会的には、精神障害者や家族に対する社会の偏見や差別、社会における障害理解への普及啓発の必要性、社会参加による社会的包摂の促進としての雇用の可能性を示唆した。精神障害者の権利保障の理念の実現や実践への示唆を含む点で重要である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to identify effective family support and early interventions that prevent poverty and social exclusion among people with mental disabilities. This was achieved by surveying individuals with mental disabilities and their families who are experiencing poverty and social exclusion. Specifically, the research involved conducting interviews and administering questionnaires to these individuals and their families. Additionally, the study explored social participation through employment as a means to combat poverty and social exclusion. The findings suggest that individuals with mental disabilities and their families may face significant challenges related to medical care, welfare, living conditions, and finances. While certain medical and welfare services appear to be beneficial, accessing these services and obtaining relevant information can be problematic, along with concerns about the quality of the services available.

研究分野：社会福祉学

キーワード：精神障害 精神疾患 社会的排除 貧困 家族支援 早期支援 医療福祉サービス メンタルヘルス

1. 研究開始当初の背景

1) 貧困・社会的排除の解決と予防の重要性

国際的には、国連が「障害者権利条約」や「持続可能な開発目標」で貧困・社会的排除の解決を国際社会の重要課題としている。国内では、ホームレスや生活保護受給者をふくむ生活困窮者の増加、社会保障費の増加が課題となっている(厚生労働省 2013)。そして、貧困・社会的排除の解決のため「ホームレス自立支援法」や「生活困窮者自立支援法」が制定された。

2) 精神障害者の効果的な支援システムの構築の重要性

2016年7月の障害者施設での殺傷事件をうけ、精神障害者の地域での支援システムの見直しが求められている(厚生労働省 2016)。また、日本には約320万人の精神障害者がいる(内閣府 2012)。国は「精神保健医療福祉の改革ビジョン」において精神障害者の病院から地域への移行を進める方針を示してきた(厚生労働省 2006)。しかし、1970年代に脱施設化を推進した米国では、退院した精神障害者の51%が6ヶ月後にホームレスとなる(Torrey ら 2010)という問題が指摘されている。国内的に、より効果的な支援システムの構築が喫緊の課題である。

3) 精神障害者の貧困・社会的排除の解決と予防の重要性

国外ではホームレスの中に精神障害者が42~2%いること(Martens ら 2001、Fazel ら 2008)。米国では精神障害がホームレスのリスク要因であることが報告されている(Tsai ら 2015)。一方、日本でも医療福祉サービスから取り残された精神障害者がホームレスや生活困窮者となっている問題が指摘されている(竹島 2012、森川ら 2013)。現在、日本におけるホームレスは約6,200人(厚生労働省 2016)、生活保護受給者は約216万人である(厚生労働省 2014)。森川ら(2008)は、ホームレスの約6割に精神障害があること、吉住(2013)は、生活保護受給者の6割以上に精神的健康の問題があることを報告した。

以上の背景から、この問題の解決に向けた学術研究の蓄積が社会的に求められている。

2. 研究の目的

本研究では精神障害者の貧困・社会的排除を予防する効果的な家族支援・早期支援のあり方を明らかにするために、下記からの目標を達成する。

支援者への縦断調査により精神障害と貧困・社会的排除の実態と因果関係を明らかにする。

家族への横断調査により精神障害者を支える家族の実態と必要な家族支援を明らかにする。

精神障害者の貧困・社会的排除を予防する効果的な家族支援・早期支援を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 文献調査 精神障害者と貧困・社会的排除、精神障害者の家族支援・早期支援、支援システムに関する文献調査を行う。調査結果をふまえ先進事例や専門家の抽出、調査設計や質問項目の検討を行う。

2) 精神障害者を支える家族の貧困・社会的排除の実態と必要な家族支援の横断調査

3) 精神障害のある生活困窮者の貧困・社会的排除の実態と因果関係の縦断調査

4) 精神障害者の貧困・社会的排除を予防する効果的な家族支援・早期支援のあり方の検証

4. 研究成果

具体的内容として、精神障害者を含む障害者やその家族について医療・福祉サービスへのアクセスの課題やニーズをインタビュー調査した。さらに、精神障害者やその家族に対しインタビューと質問紙調査を行った。内容は、精神障害者の経済、生活、医療福祉サービスの課題や効果的支援、また差別や偏見の実態や必要な社会的取組、必要なツールや情報についてであった。調査の結果、精神障害者やその家族は、医療、福祉、生活、金銭的な様々な困難を抱えており、提供されている医療福祉サービスは有効なものがあるが、サービスそのものや情報へのアクセスの困難や、内容に課題があることが示唆された。この結果をもとに、精神障害者やその家族への情報提供ツールを作成し、当事者からの意見を得て検証した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Kai Seino	4. 巻 -
2. 論文標題 Vocational rehabilitation, information, communication technology, and assistive technology devices for employment	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 New Trends in Assistive Technologies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清野絵	4. 巻 51
2. 論文標題 職業リハビリテーション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 285-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Wada, Katsuya Hayashi, Kai Seino, Naomi Ishii, Taemi Nawa, Kengo Nishimaki	4. 巻 14
2. 論文標題 Qualitative and quantitative analysis of self-reported sensory issues in individuals with neurodevelopmental disorders	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsy.2023.1077542	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Wada, Katsuya Hayashi, Kai Seino, Naomi Ishii, Taemi Nawa, Kengo Nishimaki	4. 巻 2
2. 論文標題 Qualitative and quantitative analysis of self-care regarding sensory issues among people with neurodevelopmental disorders	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Child and Adolescent Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino	4. 巻 33
2. 論文標題 International Comparison of the Systems and Realities of Employment of People with Disabilities in Seven Countries: Effects and relations of quota employment system and anti-discrimination system	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 CSRDA Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino, Kumiko Imahashi, Yoshiko Tobimatsu	4. 巻 -
2. 論文標題 Solving Problems Related to COVID-19 Faced by Persons with Disabilities in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Helping children with disabilities during a pandemic global crisis: Learning from countries around the world	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野絵	4. 巻 43
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症と知的障害, 発達障害: 福祉分野における影響と課題, 必要な取組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発達障害研究.	6. 最初と最後の頁 278-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野絵・榎本容子	4. 巻 24
2. 論文標題 大学における発達障害学生の就労支援の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino, Shun Ishizaki	4. 巻 2
2. 論文標題 A literature review of psychological narratology in the clinical domain: Artificial intelligence and robots to assist individuals with disabilities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Advances in Artificial Life Robotics	6. 最初と最後の頁 332-344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seino K, Nomoto A, Takezawa T, Heik	4. 巻
2. 論文標題 The Diversity Management for Employment of the Persons with Disabilities: Evidence of Vocational Rehabilitation in the United States and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Research Anthology on Rehabilitation Practices and Therapy,	6. 最初と最後の頁 1445-1468
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Seino K, Ishizaki S	4. 巻
2. 論文標題 Extension of Clinical/Psychological Approach Using Post Narratology: The Proposal of a Psychological Narratology and Review for Systematization	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bridging the Gap between AI, Cognitive Science, and Narratology with Narrative Generation	6. 最初と最後の頁 43 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野絵・小川浩	4. 巻 42
2. 論文標題 発達障害者の入職・職場定着支援 - ジョブコーチ支援、カスタマイズ就業を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達障害研	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野 絵	4. 巻 34
2. 論文標題 職業リハビリテーションとICT・支援機器～コロナの影響および支援技術の現状と実態～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 職業リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 24-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野 絵・丸山 晃	4. 巻 12
2. 論文標題 就労継続支援B型サービス提供者におけるICT活用の実態と可能性：精神障害、知的障害、身体障害の障害種別の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野 絵・榎本 容子	4. 巻 21
2. 論文標題 障害者就労支援に関する雇用・福祉・教育の施策動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学人間科学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 167-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清野 絵・榎本 容子・新堀 和子	4. 巻 21
2. 論文標題 家庭と教育・福祉・労働の連携による発達障害児の早期支援ー放課後等デイサービス向けキャリア教育プログラムの開発ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本容子・清野絵	4. 巻 32
2. 論文標題 高等教育機関における障害学生へのキャリア支援・就職支援の動向－発達障害学生を中心に－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 職業リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino, Yoko Enomoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Issues for Persons with Disabilities in Japan to Achieve SDGs: Poverty, Employment, and Education using National Survey	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The 18th Science Council of Asia Conference Abstracts & Full Papers	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino, Yoko Enomoto, Shiho Miyazawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Narrative Analysis of Employment Support for Students with Developmental Disabilities: Using an Objective Analysis of Free-Expression Answers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ogata T, Arakawa S, Eds, Content Generation Through Narrative Communication and Simulation	6. 最初と最後の頁 341-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kai Seino, Yoko Enomoto, Shiho Miyazawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Fundamental Study on the Development of Text Teaching Materials according to the Characteristics of Children (Persons) with Developmental Disabilities: Consideration of Information Presentation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings, The 8th Joint IEEE International Conference on Development and Learning and on Epigenetic Robotics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本容子・清野絵・木口恵美子	4. 巻 10
2. 論文標題 大学キャリアセンターの発達障害学生に対する就労支援上の困り感とは？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 八巻知香子・甲斐更紗・今橋久美子・清野絵ら
2. 発表標題 障害者の医療機関受診時の困難と好事例に関する研究 - 福祉支援職への調査結果 -
3. 学会等名 第14回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 発達障害者のテレワークにおける心理、認知的課題と対応策 - 国内および海外の文献調査の結果から -
3. 学会等名 HCGシンポジウム（電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清野絵・今橋久美子・富安幸志ら
2. 発表標題 障害者の医療機関受診時の課題と配慮：インタビュー調査の計量テキスト分析
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会第24回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 今橋久美子・清野絵・富安幸志ら
2. 発表標題 障害者の医療機関利用にあたっての課題と好事例の収集に関する当事者インタビュー調査
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会第24回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 企業の意識からみる発達障害のある学生の職場定着のための特徴および大学への支援ニーズ～質問紙調査の自由記述回答の分析から～
3. 学会等名 日本発達障害学会第57回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 米田恵子・清野絵
2. 発表標題 Literature review on social cognitive function in autism spectrum disorders
3. 学会等名 第9回成人発達障害支援学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 企画趣旨 障害者が働き、活躍するための社会環境づくりとは？多様な学問領域の視点から
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第49回宮城大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今橋久美子・清野絵・緒方徹・樋口幸治・飛松好子・八巻知香子
2. 発表標題 専門職からみた障害者の受診時の困難に関する研究
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会第23回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今橋久美子・清野絵・緒方徹・樋口幸治・飛松好子
2. 発表標題 専門職からみた障害者の受診時の困難に関する研究
3. 学会等名 第38回国立障害者リハビリテーションセンター業績発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 障害者の生活や福祉サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響：福祉分野における影響と課題，必要な取組み
3. 学会等名 第38回国立障害者リハビリテーションセンター業績発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kai Seino
2. 発表標題 Examining previous research on employment transition support for persons with developmental disability: A literature review of English articles
3. 学会等名 2021 Taiwan Psychological Association
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kai Seino
2. 発表標題 Employment Transition Support for Persons with Mental and Developmental Disability: Literature Review from Japan
3. 学会等名 2021 Taiwan Psychological Association
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清野絵・若林功・小川浩・縄岡好晴・柴田珠里・千田若菜
2. 発表標題 ジョブコーチに必要な知識・スキル(2)～支援者の所属機関による相違～
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第48回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 縄岡好晴・清野絵・若林功・小川浩・柴田珠里・千田若菜
2. 発表標題 ジョブコーチに必要な知識・スキル(1)～訪問型および企業在籍型ジョブコーチの実状～
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第48回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若林功・清野絵・小川浩・縄岡好晴・柴田珠里・千田若菜
2. 発表標題 ジョブコーチに必要な知識・スキル(3)～支援者対象者の障害種類による相違～
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第48回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seino K , Enomoto Y
2. 発表標題 Learning contents and training initiatives to enhance work motivation and retention in the workplace in those with developmental disabilities
3. 学会等名 59th Annual Conference of Taiwan Psychological Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seino K
2. 発表標題 Extension of Clinical/Psychological Approach Using Post-Narratology: Possibility of application on Artificial Intelligence and Robot
3. 学会等名 International Conference on Artificial Life and Robotics 26th (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Maida K, Seino K
2. 発表標題 Literature review on social cognitive function in autism spectrum disorders
3. 学会等名 59th Annual Conference of Taiwan Psychological Associatio (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 発達障害者の就労支援に関連する福祉・雇用・教育の施策の現状と今後の展望
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第68回秋季大
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 発達障害のある学生のキャリア意思決定支援の現状と課題
3. 学会等名 自主シンポジウム 発達障害のある学生のキャリア意思決定を支える専門性とは？日本LD学会第29回大
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 発達障害児・者の就職・職場定着を支える学習内容～働くことへの意欲を高める取組、職場定着を促す取組～
3. 学会等名 第28回職業リハビリテーション研究・実践発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清野絵・北村弥生・今橋久美子・飛松好子
2. 発表標題 平成23年生活のしづらさなどに関する調査から見た各障害種別の障害者のニーズの特徴
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学会第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和田真，清野絵，林克也，西山秀樹，西牧謙吾
2. 発表標題 発達障害者の「困ったとき、どうする集：感覚編」作成に向けた取り組み
3. 学会等名 国立障害者リハビリテーションセンター第36回業績発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵, 榎本容子, 石渡利奈, 安藤美恵, 新堀和子
2. 発表標題 全国調査に基づく発達障害のある学生の就労支援教材の開発～保護者、支援者、機関との連携による協働開発～
3. 学会等名 国立障害者リハビリテーションセンター第36回業績発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米田恵子, 清野絵
2. 発表標題 自閉症スペクトラム障害の心の理論の改善を 目的とした介入に関する文献検討
3. 学会等名 第60回日本児童青年精神医学会 ポスター発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵, 榎本容子
2. 発表標題 大学における発達障害のある学生の就労支援の実態：アンケート調査の結果から
3. 学会等名 第27回職業リハビリテーション研究・実践発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎本容子, 宮澤史穂, 清野絵, 安藤美恵, 新堀和子, 武澤友広
2. 発表標題 発達障害のある学生のキャリア選択をどう支えるか：保護者へのアプローチに焦点を当て
3. 学会等名 日本職業リハビリテーション学会第74回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 発達障害のある人のキャリア意思決定支援のヒント
3. 学会等名 名古屋大学 学生支援センター 障害学生就労支援者研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 発達障害のある学生の就労支援 : 支援者の困りごととその解決に向けて
3. 学会等名 愛知みずほ短期大学 FD・SD研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 発達障害のある学生の就労支援 : 支援者の困りごととその解決に向けて
3. 学会等名 名古屋大学 学生支援センター 障害学生就労支援者研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 大学における発達障害学生への就労支援の状況と支援上の課題
3. 学会等名 第46回日本職業リハビリテーション学会 自主ワークショップ「発達障害のある学生の円滑な就労移行に向けた『大学と職業リハビリテーション機関の連携』の在り方」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 大学における障害学生へのキャリア支援：精神障害を中心に
3. 学会等名 第46回日本職業リハビリテーション学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清野絵・榎本容子
2. 発表標題 障害学生のキャリア支援に関する雇用・福祉・教育の関連施策の動向：文献レビュー
3. 学会等名 第26回職業リハビリテーション研究・実践発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清野絵
2. 発表標題 家庭と教育・福祉・労働との連携の重要性と今後求められる取組 清野 絵
3. 学会等名 日本LD学会 第27回大会（新潟）、自主シンポジウム「家庭と教育・福祉・就労の連携によるキャリア教育」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kai Seino, Yoko Enomoto
2. 発表標題 Issues for Persons with Disabilities in Japan to Achieve SDGs: Poverty, Employment, and Education using National Survey
3. 学会等名 the 18th Science Council of Asia Conferenc (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kai Seino, Yoko Enomoto, Shiho Miyazawa
2. 発表標題 Fundamental Study on the Development of Text Teaching Materials according to the Characteristics of Children (Persons) with Developmental Disabilities: Consideration of Information Presentation
3. 学会等名 The 8th Joint IEEE International Conference on Development and Learning and on Epigenetic Robotics, Workshop "Understanding Developmental Disorders (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎本容子・清野絵・木口恵美子・新堀和子
2. 発表標題 キャリアセンターにおける発達障害の学生への支援状況5
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会第19回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎宏朗・清野絵・眞鍋克博・益川順子・片平洌彦
2. 発表標題 C型肝炎感染被害者が直面するカルテ等の投棄証明を得る上での困難の実態
3. 学会等名 第58回日本社会医学会総会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 清野絵・榎本容子(編著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 194
3. 書名 発達障害の就労とキャリア発達 ライフステージをつなぐ支援	

1. 著者名 清野絵 (分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 -
3. 書名 障害者の雇用と「働く」ことの意味ー共生社会への道ー	

1. 著者名 清野絵 (分担翻訳) 木下大生・竹内千仙・ケビン・M・マクマナス (監訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 現代人文社	5. 総ページ数 183
3. 書名 知的障害と認知症 家族のためのガイド (Karen Watchman. Intellectual Disabilities and Dementia)	

1. 著者名 清野絵・榎本容子・石崎俊	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 18
3. 書名 障害者リハビリテーション研究における情報学的物語分析の意義と可能性：テキストマイニングと物語論による混合研究法. 小方孝 (編) ポストナラトロジーの諸相 人工知能の時代のナラトロジーに向けて 1	

1. 著者名 Kai Seino, Yuichiro Haruna, Shun Ishizaki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 IGI Global	5. 総ページ数 32
3. 書名 The Employment Status and Support Needs of Persons with Disabilities in Japan: Analysis and Generation of Narrative Using a Narratology and Text Mining, Ogata T, Arakawa S, Eds, "Post-Narratology Through Computational and Cognitive Approaches"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------